

学校評価アンケート結果について（考察）

I 生徒アンケートより

一昨年度より紙媒体を廃止し、一人一台タブレットから Forms によるアンケート実施に変更している。回答率は、87.6.%（昨年度 90.8 %）で、昨年度と同じ 19 の問いを設けた。そのうち 6 問で昨年度と比べて 3 ポイント以上評価が向上し、10 問で大きな変化は見られず、1 問で評価が悪くなった。

良い（評価できる）ところ【生徒アンケート】

問1「自分は、楽しい学校生活を送れている」について、まったくあてはまらないが本年度 0 ポイントである。全体的には、92 %が学校生活や家庭生活は充実していると回答し、肯定的な評価が得られている。楽しい学校生活を送ることは、生徒にとってとても大切なことであるので、今後も高い評価となるようにしたい。

問2「自分は、学習や生活で目標を持って学校生活を送っている」について、まったくあてはまらないが本年度 0 ポイントである。昨年度同様肯定的な評価（85 %）が得られている。

問3「自分は学校の様子について、家庭でよく話をする」について、肯定的評価の割合が年々高くなっている。家庭で話し合う時間が増え、悩みを打ち明けることができる環境にあると考えられる。また、コロナウイルス感染症が5類に下がったことで、行事や活動が増え、自然と家庭で学校のことを話すことが増えていると考えられる。

問4「自分は授業が楽しく、内容がよくわかる」について、肯定的評価の割合が年々高くなっている（77 %→80 %→87 %）。授業が充実していることや、支援員の先生による効果的で積極的な支援が要因と考えられるが、学校生活の基盤である項目であるので、ICT の活用や外部から講師を招くなどして学習活動に工夫をし、さらなる向上を目標としたい。

問15「先生は、自分の悩みなどの相談に適切に対応してくれると思う」について、年々ポイントが上がっている（78 %→81 %→89 %）。教職員が意識して指導や支援を行っており、適切に対応できているため、生徒が教員のことを信頼している割合が増加していると考えられる。

問16「先生は、いじめなどのない楽しい学級づくりや仲間づくりに努めていると思う」について年々ポイントが上がっている（87 %→90 %→94 %）。担任が中心となり各学年団でまとまって相談、対応、指導、見守りができており、一人一人にきめ細やかな対応ができています。

問17「学校は、校内の環境美化や施設・設備の整備に積極的に取り組んでいると思う」について、年々ポイントが上がっている（83 %→85 %→92 %）。教職員が環境整備について意識を持って取り組むことができつつある。

問19「学校は、地震・津波・不審者など、聞きに対応する指導ができていると思う」について、肯定的評価が年々上がっている（86 %→90 %→96 %）。予告なしの防災訓練をはじめ、防災関係の授業などに積極的に取り組むことができている。

努力（改善）すべきところと具体的な取り組み【生徒アンケート】

問1「自分は、楽しい学校生活を送れている」について、あまりあてはまらないが少数である（5 %）がいるため、普段の様子の観察やアンケートなどで原因を見つけ改善が必要である。

問2「自分は、学習や生活で目標を持って学校生活を送っている」について、あまりあてはまらないが（14 %）いる。目標を持って学校生活を送るために、毎日の小さな目標を決めて実行させ

るなど、達成感を味わうことができる取り組みをする。学級や部活等で意識して目標を持たせたり、掲示により「見える化」したりするなどの方法が考えられる。

問5「自分は、本をよく読んでいる（1ヶ月に2冊以上の本を読む）」について、よくあてはまるの人数がかなり減っている（25%→15%）。新刊の紹介を目につきやすい所に設置したり、読みたい本のアンケートなど興味を持たせたりする工夫が考えられる。朝学習の読書の時間に宿題をする習慣がついている生徒が少なからずいるので、読書の徹底が必要である。朝読書で1日10分程度の時間があり、1ヶ月で3時間以上確保できるので、その時間を有効に使う。また、生徒の要望により、図書貸出し期間を1月から1週間から2週間に伸ばしている。

問6「自分は、家庭学習（塾を含む）を熱心に取り組んでいる」について（67%→68%）、評価に変化はないが、家庭学習の方法の指導や、課題の出し方を工夫する等し、さらに家庭学習に取り組ませたい。

問7「自分は、自ら進んであいさつができる」について、肯定的評価の割合は83%となっているが、自ら進んであいさつができる生徒は一部のように感じられる。挨拶の意義・役割を再確認できるような教材の活用、「あいさつキャンペーン」等の実施、教師が模範なり積極的にあいさつをするなどして、生徒の主体的なあいさつを促したい。

問8「自分は、清掃活動にまじめに取り組んでいる」について、（92%→92%）さらに、清掃活動に真面目に取り組むことができるように、無言清掃や清掃の意味を考えさせるなど工夫が必要である。

問9「自分は、健康な生活づくり（食事・睡眠・生活リズム）に努めている」について（74%→75%）、一歩踏み込んだ啓発活動として、学校だより等で生活リズムの乱れが生む学習への弊害等を知らせる。また、スマホの使用時間を制限するなどして睡眠時間を確保することの重要性について啓発しなければならない。

問10「自分は、部活動（校外クラブ活動も含む）に一生懸命取り組んでいる」について、肯定的評価が87%で、昨年度より4%低い。（86%→91%→87%）とくによくあてはまるが7%減少と大きく下がっている。部活動の意義を生徒自身が十分に理解できていないため、一部の生徒は「やられされている」感覚で取り組んでいるのではないかと。何のために部活動をするのか考え直す必要があり、生徒同士のミーティングをし、目標を共有させることも大事である。「部活動は課外活動であり、教員としての仕事には含まれていないが（文部科学省にて記載あり）協力により実施できている。」と伝えても良い。放課後や休日に活動できているという感謝の気持ちを持たせ、有意義な活動につなげたい。また、部活度に対する姿勢や期待することが多様化しており、画一的な取り組みでは対応しきれなくなっている。指導者も働き方改革の流れも踏まえながら、指導方法（声かけや部活に取り組む姿勢）をアップデートしなければならない。

2 保護者アンケートより

一昨年度より紙媒体を廃止し、保護者のスマートフォンやPCを利用したFormsによるアンケート実施に変更している。回答率は、88.8%（昨年度67.1%）で、ラインネットやクラスでの呼びかけを行うことにより、回答率が大幅に増加した。昨年度と同じ19の問いを設けたが、そのうち3問で昨年度と比べて3ポイント以上評価が向上し、9問で大きな変化は見られず、7問で評価が悪くなった。

良い(評価できる)ところ【保護者アンケート】

問3 「お子さんは、学校の様子について、よく話をする」について、昨年度より肯定的評価が7ポイント向上し(70%→77%)、学校の話が家庭で話題になっていることがわかった。生徒も76%が肯定的な評価をしており、親子間のコミュニケーションがとれている家庭が増えた。

問4 「お子さんは、授業の内容がよくわかるようである」について、昨年度64%に対して66%であったが、子ども(肯定87%)と保護者(肯定66%)の差が大きい。

問12 「教師は、授業改善や教材の工夫を行いわかりやすい授業に務めている」について、昨年度67%に対して71%と増加している。学校生活の基盤である項目であるので、ICTの活用や外部から講師を招くなどして学習活動に工夫をし、さらなる向上を目標としたい。

問17 「学校は、校内の環境美化や施設・設備の整備に積極的に取り組んでいる」について、肯定的な割合が高くなった(79%→84%)。コロナウイルス感染症が5類に下がったことで、行事や活動が増え、保護者が学校に来校する機会が増えたことも要因の一つと考えられる。

努力(改善)すべきところと具体的な取り組み【保護者アンケート】

問1 「お子さんは、学校生活を楽しんでいる」について(88%→93%→87%)、生徒は肯定的評価が92%であることから、生徒の楽しんでいることがうまく保護者に伝えられていないと考えられる。学校生活の様子が保護者に伝わる工夫として、保護者宛文書の時候の挨拶を学校生活の様子を知らせるお知らせに変えるなどが考えられる。「卒業式が近づき、音楽室から素敵な歌声が聞こえてきます。」のような文に) また、子どもの状態に合わせた声かけや、一人一人にあった支援が必要である。

問3 「お子さんは、学校の様子について、よく話しをする」という文面について、保護者の子どもに対する姿勢として、「お子さんは…」ではなく「お子さんと…」がいいのではないかと、という意見があった。

問4 「お子さんは、授業の内容がよくわかるようである」について、教員の使命である授業の理解度への否定的評価があることを受け止めて、改善する必要がある。また、子どもの状態に合わせた声かけや、一人一人にあった支援が必要である。

問7 「お子さんは、あいさつがよくできている」について、(90%→83%)と、評価が下がっているが、それでも8割以上の保護者があいさつがよくできていると回答している。基本的な生活習慣については、学校だけでなく家庭で行う必要もあるので、家庭への啓発にも努めたい。学校では、挨拶運動を工夫をする。挨拶が元気よくできたら、シールを貼るなど、可視化する(1年の掲示板のように)などが考えられる。

問12 「教師は、授業改善や教材の工夫を行いわかりやすい授業に努めていると思う」について、評価は上がっているが、「わからない」という回答も20%あり、保護者の方には判断しづらいのではないかと意見があった。

問11 「お子さんは、部活動に一生懸命取り組んでいる」について、部活動に一生懸命取り組んでいるとの肯定的な回答が保護者も生徒も低くなっている。意欲的に取り組むことができるように、大会等に向けての目標をしっかりと持ち、計画的に活動することが大事である。また、生徒へのアンケートと同様に、あてはまらない・まったくあてはまらないのポイントが年々多くなっている。子供の「やられされている」という気持ちが保護者へも影響があると思われ、保護者も放課後や休

日に活動できているという指導者への感謝の気持ちがあれば、生徒へも良い影響が出ると考えられる。こんな時代だからこそ、チームワークが必要でないか。

保護者が中学生の頃は、教員が部活をみて当たり前で、教員の仕事に部活動が含まれていないことを知らない保護者は非常に多い。保護者会や入学説明会などで、保護者の自分の仕事に当てはめて、休日に出勤したいか。家庭もあるなか休日を消費して、大会など丸1日休めない日があったらどう思うか?など、部活動が教員の時間を削って行っているものであると発信して良いのではないか。協力あってこそその活動であるとする事で感謝の気持ちから、生徒も一生懸命に取り組める、背中を押してくれるサポートがうまれると考える。そうしないと教員も気持ちがもたない、という意見があった。

問14「先生は、いじめなどのない楽しい学級づくりや仲間づくりに努めていると思う」について、前年度を下回っている(70%→74%→71%)ため改善が必要だが、生徒は肯定的評価となっており、保護者に取り組みの実際が伝わっていない側面もある。今後とも教師が一人一人の実態を把握し、保護者の方と連絡をとったり発信することが大切だと考える。

また、学級経営方針や部活の方針として明確に生徒に伝えるべき問題が起きた場合は毅然と対応する。

問15「学校は、家庭への連絡や情報提供を積極的に行っていると思う」について、実際には、担任の先生が丁寧に電話をしているにもかかわらず、肯定的評価が7%減少している。また、あまりあてはまらないが5%上昇している。HPの活用方法やラインネットの活用など対策を講じる必要がある。HP等で学校の様子をこまめにあげることが考えられるが、HPについては、情報発信の方法として活用すべきで、運用方法やアップの方法について研修をしなければならない。授業の様子などを発信すれば、教師の授業への熱意も伝わるのではないか。

また、家庭への連絡を電話だけでなく teams で行い、文字で簡単に連絡をとれるようにはできないか。(例:電話するまでではないが、生徒の様子を伝えることで保護者が安心できる)

問19「学校は、地震・津波・不審者など、危機に対応する指導ができていると思う」について、肯定的評価が下がり(73%→73%→66%)、さらに、わからないと答えた保護者も24%おり、今後の発信の仕方が課題である。・保護者と共に避難訓練をするという方法も考えられる。

3 教職員アンケートより

問3「生徒の学力は、少しずつではあるが向上していると思う」について(80%→91%→95%)

肯定的な評価が増えているが、学力に関しては、やらされる学習では力がつきにくい、先生も生徒も厳しさに欠けているといった、否定的な回答もある。

問4「生徒の読書量は、少しずつではあるが向上していると思う」について、読書量の減少が顕著になっているので、読書の推進を行う。

問6「生徒は、あいさつがよくできている」について、生徒のあいさつには課題があると認識している。教師が模範なり積極的にあいさつをしていく。

問12 ややあてはまるではなく、よくあてはまるにしなければならない。

問15 風通しのよい職場づくりのパーセンテージが年々減っている。先生方が忙しく、余裕がないのが現状である。お互いにゆっくり話す時間を作るためにも、働き方改革の推進が急がれる。風通しの良い職場とは難しい面もあるが、情報の共有・公開が必要である。

その他(全体的に・・・など)

・ややあてはまるの割合が高いため、教職員も積極的に行動し、よくあてはまるといえるように全力で取り組んでいきたい。保護者の考え方にもよるが「もしかしたら、何か足りていない」と考えるべきである。

・解答の方法に記述式も取り入れると、より具体的に内容が把握でき、特にあてはまらない解答に対して方策が立てやすくなるのではないだろうか。

・教員が、授業改善や学級経営に時間を割き、集中できる環境が整っていることが必要である。「もっといい授業がしたい」「もっと余裕をもって生徒と関わりたい」と思いながらも多忙感に追われているので、業務改善（部活動の外部移行、出張の精選など）、仕事量の公平化（一部の教員に負担がかたよらないように）をぜひ進めてほしいという意見が複数あった。

・生徒、保護者、教職員の間にある捉え方の差をしっかりと把握しておかなければならない。①あいさつ②情報発信③いじめのない楽しい学級づくりなどに差が見られる。教職員の自己満足で終わらないように検証しなければならない。

・学年団のつながりは強いように思うが、他学年との連携が十分にとれていないことが多いと感じるという意見があった。

・保護者アンケートの15以降の項目については、より学校からの情報提供や保護者と一緒に考える機会を増やすとよい。保護者の負担は多少増えるだろうが、そうすることで学級の取り組みについて理解が広がるのではないか。あいさつや忘れ物をしない、健康な生活作り、読書週間などは家庭生活の一部なので、家庭での教育を進めるための啓発を行いたい。

4 学校運営協議会委員アンケートより

問1「学校目標は適切に設定されている」、**問2**「重点目標や経営方針は適切に設定されている」、**問3**「学校は地域から期待されている」について、それぞれあてはまるが100%となっている。

問4「教職員は熱心に教育活動にあたっている」、**問7**「生徒は周りの人にあいさつをすることができている」について、それぞれあてはまるが75%、わからない25%となっている。

問5「学校は生活指導を適切に行っている」、**問8**「訪問したときなど生徒が生き生きしていると感じる」、**問10**「学校は防災活動に熱心に取り組んでいる」について、あてはまる50%、だいたいあてはまる50%となっている。

問6「学校の部活動は盛んである」について、あてはまる25%、だいたいあてはまる75%となっている。他の項目と比較して、肯定的な評価ではあるものの、だいたいあてはまると回答した人が多く、部活動についての発信方法を工夫したい。

問9「学校行事に生徒は一生懸命取り組んでいる」について、あてはまる50%、だいたいあてはまる25%、わからない25%となっている。

ご意見

- ・実際の活動を見る機会が少ないが、概ね運営は適切に行われていると感じる。
- ・忙しいと思うが、HPの更新がもう少し多ければ活動内容を見ることができるかと思う。
- ・すべての生徒が自分らしく成長できる環境を整えることが大切だと思うが、もっと保護者が協力する必要がある。
- ・先生方は熱心に教育、部活動に取り組んでいると思う。

考察

アンケートでは、すべての項目に肯定的な評価を得られているが、だいたいあてはまるの評価をあてはまるの評価にすることができるよう、さらに取り組んでいきたい。また、HP の更新について、どのような更新の仕方が有効な情報発信につながるか、検討したい。